

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「心理的安全性」をキーワードに、「安心して相談できる関係性」や「積極的な挑戦を後押しする環境」を構築し、「やってみよう！」「できた！」を増やす、多様性を認めて相互に支え合うことができる前向きな学校をめざして、次の取組みを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上

キャッチフレーズ：「めざす子ども像の実現に向け、根拠に基づくユーモアのあるユニークな取組みに挑戦！」

- (1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する
- ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う
- イ 自立活動を推進する
- ウ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する
- エ 効果的な指導方法を検討する
- オ シラバス活用を促進する
- カ 小中学部からのキャリア教育を充実させる
- (2) 時代にマッチした教育理論を構築する
- ア 効果的な指導支援体制を研究・推進する
- イ カリキュラム・マネジメントを充実させる
- ウ ICTを活用した取組みを推進する
- エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する
- オ 人権感覚を育む
- カ いじめの未然防止に努める
- キ 防災・防犯に努める
- (3) 次世代教員を育成する
- ア 人権感覚を高める
- イ 他学部の実践を知る機会を作る
- ウ アレルギー対応の強化を図る

2 保護者・地域・関係機関との連携

キャッチフレーズ：「認め合い ともに子どもを 育てよう！」

- (1) 保護者との連携を深める
- ア 保護者が悩みを相談できる機会を作る
- イ 自主単独通学により社会性を育む
- (2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する
- ア きれいな地域づくりに貢献する
- イ 学校間交流を実施する
- ウ 居住地校交流を実施する
- エ ボランティア募集活動を推進する
- (3) わかりやすい最新の情報発信を行う
- ア デジタル化を推進する
- イ 興味がわく情報発信を行う

3 働き方改革

キャッチフレーズ：「何を言っても大丈夫 困ったときはお互い様 みんなが安心 良い職場！」

- (1) 同僚性の高い職場づくりを行う
- ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる
- イ なんでも相談できる雰囲気づくりを行う
- (2) 教職員が働きやすい環境整備を進める
- ア 教材バンクの活用を促進する
- イ グラウンドを使いやすくする
- ウ 分掌長・主事等の業務を軽減する
- エ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す
- オ 写真撮影・販売等の業務を削減する
- カ ダイアルインを導入し、活用を進める
- キ ICTを活用して業務の効率化を図る
- ク 会議の円滑化・充実を図る
- (3) 業務推進体制を整理する
- ア 校務分掌体制を整理する
- イ 情報共有体制の強化を図る
- ウ 新校務環境を活用した業務改善を図る

4 地域支援

キャッチフレーズ：「未来をつなぐ次世代のLS育成 ～ 学校を巡り、子どもたち・先生方を笑顔に！ ～」

- (1) 地域との連携強化を図る
- ア 校内の支援コーディネーターの育成を図る
- イ 校外の支援コーディネーターの育成を図る

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 ＜推進部署＞	具体的な取組計画・内容 (太文字下線部分はキャッチフレーズ)	評価指標[R 7 年度値]	進捗状況
1 知的障がい教育の専門性向上	(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉症・パニック障害の特性に応じた指導支援を含む) ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う ＜支援研究部＞ イ 自立活動を推進する ＜カリマネ行動支援 PT・自立活動主任＞ ウ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する ＜小中学部＞ エ 効果的な指導方法を検討する ＜担当首席・管理職・小中学部＞ オ シラバス活用を促進する ＜カリマネ行動支援 PT・教務部＞ カ 小中学部からのキャリア教育を充実させる ＜小中学部 進路指導部＞ (2) 時代にマッチした教育理論を構築する ア 効果的な指導支援を研究・推進する ＜全校・カリマネ行動支援 PT・支援研究部・管理職＞ イ カリキュラム・マネジメントを充実させる ＜カリマネ行動支援 PT＞ ウ ICT を活用した取組みを推進する ＜DX 推進 PT・情報部＞	(1) ア <u>学びを実践へ！</u> <u>広がるコミュニケーションの輪</u> ・コミュニケーション支援のワークショップで手法を学び、校内に広める ・学んだ手続きを効果的に共有し、他の教職員と連携して、共通の実践ができる体制を構築する イ <u>一人ひとりの良さを伸ばす自立活動！</u> ・全校・各学部で自立活動の研修・実践報告を実施する ウ <u>見通し！ 前向き！ 認め合い！</u> ・児童生徒が前向きに取り組めるよう、見通しを持たせる授業計画を立てると共に、互いを尊重できる実践を行う エ <u>学ばせ方改革！</u> <u>授業力パワーアップ！ハイパー！</u> ・授業中の待ち時間を減らし、子ども一人ひとりの活動量を保障する ・授業の初めに、めあてを分かりやすく伝えると共に、めあてに沿った振り返りを行う <u>児童に伝えよう！具体的な授業のめあて</u> ・実態に応じた目標を指導案に記載すると共に、教員間で目標と評価の実施について共通理解を図る ・授業の初めに、めあてを分かりやすく伝えると共に、めあてに沿った振り返りを行う <u>楽しくからだを動かそう！</u> ・中庭や特別教室等で児童が体を動かす機会を設ける ・全体の様子を把握しながら、児童が興味関心をもてるような環境設定を行う オ <u>「シラバス」×「教科書（☆本）」</u> <u>＝「魅力ある授業づくりの実現」</u> ・シラバス・教科書（☆本）の活用を通して魅力ある授業づくりを推進する カ <u>学校ぜ～んぶ、笑顔でつながろう！</u> <u>寝屋川ファミリー（児生版）</u> ・児童生徒の学部間交流を計画・実施する <u>ディスカバー&ビルド！</u> <u>自分だけのキャリア！</u> ・進路選択・実現に向けたキャリア教育の取組みを行い、就労に対する意識を高める (2) ア <u>一人ひとりの可能性を輝かせる</u> <u>ポジティブな学校！</u> ・望ましい行動に向けた支援について学校規模で研修・実践に取り組む。 <u>当たり前じゃない！「当たり前」</u> ・児童生徒が「当たり前」にできている適正行動に着目して言語化することで、行動の維持向上を図り、消失を防ぐ <u>一人ひとりに合った支援で</u> <u>大人も子どももみんな笑顔に！</u> ・外部の専門家を招聘し、夏季休業中の効果的な研修の実施により専門性の向上を図る イ <u>続・続みんなで作る「カリキュラム</u> <u>・マネジメント」～ 達成の3年目！ ～</u> ・カリマネにより、学部間、分掌・PT の連携・協力を進め、より良い学校づくりを行う ウ <u>ICT 活用力で変わる！教育の新しいカタチ</u> ・全教職員を対象とした ICT 活用能力向上のための研修を実施し、全体の底上げを図る <u>あるあるTV！みるみるネット！</u> ・教室モニター設置率を改善し、いつでも ICT を活用した授業展開ができる環境改善を図る <u>足元から広がる無限の可能性！</u> <u>未来を彩る学びのフロア</u> ・床面プロジェクションマッピング装置を設置して床面に行動の手がかりを投影し、教育活動の支援を行う	(1) ア ・学んだ教員の報告会実施 年 1 回 ・今までのワークショップ受講者全員による周囲への効果的な手続き共有 自クラス担任数以上 イ ・各学部研修のアンケート結果考察 ・夏季研修のアンケート結果考察 ウ ・校長の授業観察時に確認 年 1 回以上 エ ・研究授業の研究協議で活動量が保障されていたかを協議する。 ・校長の授業観察時に確認する。 ・校長の授業観察時に確認 年 1 回以上 ・研究授業の研究協議でめあてに関する協議を行う。 ・年度末反省での振り返り ・中庭、特別教室等の毎日活用 100% （室外は高温時、悪天候時を除く） オ ・シラバス・教科書の活用状況確認 年 2 回以上 カ ・児童生徒同士の学部間交流を行う 小中学部 年 1 回 小学部 全他学年との交流 年 1 回 中学部 学年間の授業見学 年 1 回 ・校内実習・就労に向けた取組み 中学部 年 1 回以上 (2) ア ・SWPBS（スクールワイドポジティブ行動支援）に関する学校規模研修実施 ・アンケート等の実施により、各部にフィットした具体的指標を検討して実践する ・SWPBS 実践校見学 ・学期末毎に「適正行動への着目」に関するアンケート 年 3 回 ・夏季研修のアンケート結果考察 イ ・研修の実施 年 1 回以上 ・分掌、PT 間の定期的な情報交換 ・これらを含むカリマネ通信の発行 学期 1 回以上 ウ ・研修実施後のアンケート結果考察 ・校内モニター設置率 5% 増 ・床面プロジェクションマッピング装置（単焦点プロジェクター）の設置	

	エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する<教育環境部・小中学部・生活指導部> オ 人権感覚を育む<担当首席・小中学部> カ いじめの未然防止に努める<生活指導部・小中学部> キ 防災・防犯に努める<担当首席・生活指導部> (3) 次世代教職員を育成する ア 人権感覚を高める<小中学部・管理職> イ 他学部との取り組みを知る機会を作る<担当首席> ウ アレルギー対応の強化を図る<健康教育部>	エ <u>行きたい！読みたい！ライブラリー！</u> ・児童生徒が読みたい本を積極的に取り入れ、興味関心が広がる読書教育を推進する。 <u>笑顔と声で迎える朝 元気のスイッチ ON！</u> ・学部を越えて児童生徒会が一緒に朝のあいさつ運動を実施する <u>ねやがわレポリーション！</u> ・50 周年の様々な記念事業で高まった機運を継続していく意識の構築を図る オ <u>あなたらしく 私たちらしく</u> ・人権をテーマにした教育を HR や授業で実施する カ <u>みんなで守ろう、みんなの笑顔！</u> ・「いじめ対策委員会」を学期 1 回開催、いじめに繋がる事案等の確認を行い、未然防止に努める ・いじめ事案が確認されたら即ち委員会を開催し、組織としての対応を検討する ・『学校いじめ基本防止方針』を改訂、教職員・保護者へ効果的に周知する ・「部集会」で各学部生活指導部より、児童生徒に向け、いじめ防止に関する講話の実施 キ <u>みんなで助かる防災計画！</u> ・児童生徒は元より、教職員も含め全員で助かる防災計画の確認を行う <u>みんなで守る安全な学校、ヒヤリハットが第一歩！</u> ・ヒヤリハット報告を通して教職員の安全意識を向上させ、事故や災害の未然防止を図る ・学期初めにヒヤリハット報告の協力依頼を職朝時に行う ・必要に応じて、ヒヤリハット情報を職朝で共有する <u>一人ひとりのチェックで安心 みんなの未来！</u> ・マニュアルや校内の実情に応じた訓練、双方を実施する (3) ア <u>子どもの人権尊重！ 広げよう「前向き」「認める」言葉かけ！</u> ・子ども一人ひとりの人格を尊重し、ポジティブな言葉かけで行動を促す イ <u>学校ぜ～んぶ、笑顔でつながろう！ 寝屋川ファミリー（教員版）</u> ・教職員の学部間交流を計画・実施する ウ <u>誰でもわかる！給食と食物アレルギー</u> ・年度当初のマニュアル説明、食物アレルギーに関する研修の実施、しおり・マニュアルの各クラス配備により、絶対に食物アレルギー事故を起こさない体制の構築を行う	エ ・図書室内の環境整備の継続。 ・書籍の入れ替え。（新規購入・寄贈等を合わせて全書籍の 5%） ・あいさつ運動 週 1 回以上 ・50 周年記念ダンス 学期 1 回以上 ・記念ソングをバス降車合図として活用 オ ・人権学習 年 1 回 ・人権推進委員会開催 学期 1 回 カ ・学校教育自己診断の保護者評価「いじめについて」55%以上[52%] キ ・防災計画の確認・修正の実施 ・ヒヤリハット報告提出数 R6 年度比 80%増 ・防災訓練（必須訓練及び誤報に関する訓練 各 1 回以上） ・防犯訓練（教員・児童生徒各 1 回） (3) ア ・校長の授業観察、部主事等からの聞き取りで確認 年 1 回以上 イ ・十分な準備のもと、他学部のミドルリーダー等が丸一日担任を入れ替わり、児童生徒の指導支援を行う 年 1 回 ウ ・食物アレルギー研修実施 年 1 回以上 ・マニュアル活用状況アンケート実施	
2 保護者・地域・関係機関との連携	(1) 保護者との連携を深める ア 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る<保健室> イ 自主単独通学により社会性を育む<生活指導部> (2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する ア きれいな地域づくりに貢献する<小中学部> イ 学校間交流を実施する<小中学部> ウ 居住地校交流を実施する<小中学部> エ ボランティア募集活動を推進する<担当首席> (3) わかりやすい最新の情報発信を行う ア デジタル化を推進する<担当首席>	(1) ア <u>相談室へいらっしゃい！</u> ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定する ・できるだけ担任も同席し話を共有する イ <u>はじめよう自主単を！ 身につけ伸ばそう社会性！</u> ・保護者と連携し、自主単独通学生徒を増やし活動を通して社会自立に向けた力を育む (2) ア <u>一緒に磨こう！公園キラキラ、心がぽかぽか</u> ・きれいな地域づくりに貢献し、地域との交流を深める イ <u>こんにちは！寝屋川支援学校です</u> ・各学部において、学校間交流を行う ウ <u>こんにちは！この地域に住んでいます</u> ・居住地校交流を実施する エ・<u>地域の力を結集して、子どもたちの未来を育もう！</u> ・スクールボランティア数を増やして、子どもたちへの教育環境を充実させる ・ボランティア募集のチラシを学校 HP に掲載すると共に、近隣大学へ配付を実施 (3) ア <u>デジタルの窓でつながる みんなの学びと笑顔！</u> ・児童生徒の取り組みを、来校した保護者にわかりやすく情報発信するためにサイネージを	(1) ア ・学期 2 回以上の実施 ・1 回につき 3 件以上の相談 イ ・自主単独通学生徒数 R6 年度比 40%増 (2) ア ・寝屋川公園の清掃活動を実施 小中学部 年 1 回以上 イ ・学校間交流実施 年 1 回以上 ウ ・希望する居住地校交流実施 100% エ ・スクールボランティア登録者数 R6 年度比 80%増 (3) ア ・学校教育自己診断の保護者評価「教育情報の提供」88%以上[83%]	

	イ 興味がわく情報発信を行う ＜担当首席＞	設置する イ <u>「みんなの学校ブログ」</u> <u>～学校のワクワクをブログで発信！～</u> ・児童生徒が主体となって、寝屋川支援学校の魅力を学校ブログで発信する	イ ・児童生徒からのブログ投稿 年間 50 件以上	
3 働き方改革	(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる ＜管理職＞ イ なんでも相談できる雰囲気づくりを行う ＜管理職＞ (2) 教職員が働きやすい環境整備 ア 教材バンクの活用を促進する ＜教務部＞ イ グラウンドを使いやすくする ＜健康教育部＞ ウ 分掌長・主事等の業務を軽減する ＜学年主任＞ エ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す ＜教育環境部 健康教育部＞ オ 写真撮影・販売等の業務を削減する ＜管理職＞ カ ダイアルインを導入し、活用を進める ＜管理職＞ キ ICT を活用して業務の効率化を図る ＜DX推進PT＞ ク 会議の円滑化・充実を図る ＜全校＞ (3) 業務推進体制を整理する ア 校務分掌を整理する ＜管理職＞ イ 情報共有体制の強化を図る ＜全校＞ ウ 新校務環境を活用した業務改善を図る ＜情報部＞	(1) ア <u>1に健康 2に生活 34 がなくて</u> <u>5に仕事！</u> ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスをさらに向上させる イ <u>何を言っても大丈夫！困ったときはお互い様</u> ・教職員同士が気持ちよく業務を行えるよう、なんでも相談できる職員室の雰囲気づくりを行う (2) ア <u>知識の循環を進めよう！</u> <u>教材バンクで学びの連鎖</u> ・共有できる教材を増やし、効果的な教材研究の実施を推進する イ <u>整備で変わる！みんなのグラウンド</u> ・使用後や降雨後に点検・簡易整備を行うことで、使用したい時に使える環境を維持する ウ <u>分掌長さんそれやりますよ！アップデート</u> ・業務の平準化のため、アンケートを実施して分掌長・主事等の学年業務の軽減を図る エ <u>管理上手で無駄なく長いお付き合い！</u> ・備品、消耗品、教材の管理を行う <u>チェックでつなぐ安心安全！</u> ・校内安全点検を実施し、教育環境を整える <u>学校キレイ大作戦！</u> <u>整理整頓で清潔な教室を！</u> ・50 周年記念事業で整備した HR 教室・特別教室、廊下の掃除道具の状態を維持する <u>児童生徒・教員・環境にも優しいプール！</u> ・プール清掃・維持業務の負担を軽減するため洗浄促進剤を活用する オ <u>プロにお任せ！思い出満載！</u> ・日常の風景や泊行事を含む行事の撮影及び、卒業アルバムの写真選定から作成までを業者に委託し、教員の業務を削減する カ <u>内線は過去！ダイアルインで未来！</u> ・ダイアルインを導入し、内線の負担を軽減する キ <u>ICT 活用力で変わる！業務の新しいカタチ</u> ・全教職員を対象とした ICT 活用能力向上のための研修を実施し、業務の効率化を図る ク <u>「こうあるべきだ！」はやめましょう！</u> <u>柔軟に問題解決！</u> ・提案に課題を述べるときは、併せて代替案を提示し、建設的で円滑な検討を行う。 <u>これ、なんのためにやってるの？</u> <u>「例年通り」はやめましょう！</u> ・行事等を検討する際、教育効果の向上を図ると共に働き方改革を進める。 (3) ア <u>分掌から飛び出し続ける PT！</u> ・分掌と PT の担当をそれぞれ独立させ、業務の平準化・推進を促進する イ <u>飛び越えない「情報共有」！</u> ・業務に関する情報に洩れを生じさせないため、学級→学年主任→学部主事、各担当→係主任→分掌長、担当首席→教頭→校長・准校長と、順序だてた共有を図る ウ <u>進むシステム 減らそう業務</u> <u>チャンスの時間！</u> ・導入された新校務環境を活用し、個人や組織の生産性の向上を図るため、情報発信や業務の提案を行う	(1) ア ・ストレスチェックの総合健康リスクが全国平均より下回る〔100〕 イ ・学校教育自己診断教職員評価 「教職員での話し合い」90%[84%] (2) ア ・教材バンクに格納された情報教材数 昨年度比 120% イ ・学期に 1 回のにがりまき・溝清掃実施 ・グラウンド使用後の簡易整備割合確認 ウ ・首席・分掌長等への面談時に確認 年 1 回以上 エ ・職員用ロッカー・靴箱、教材倉庫の整理整頓の実施 ・毎月の安全点検の実施と補修の依頼の実施 ・年度初め、学期末に過不足の調整 年 4 回 ・掃除の時間及び参加人数の確認 オ ・写真販売システム、アルバム作成業者の選定、提携 カ ・ダイアルインシステムの導入 活用に関する状況を面談にて確認 キ ・研修実施後のアンケート結果考察 ク ・首席・分掌長等への面談時に確認 年 1 回以上 ・学校教育自己診断教職員評価 「行事の工夫・改善」88%〔83%〕 (3) ア ・首席・分掌長等の面談時に確認 イ ・首席・部主事等の面談時に確認 ウ ・職員室以外で MS365 を利用したことがある 100% ・新環境を利用した業務改善ニュースを年 6 回発行する	
4 地域支援	(1)地域との連携強化を図る ア 校内の支援コーディネーター育成 ＜支援部、LS＞ イ 校外の支援コーディネーター育成 ＜支援部、LS＞	(1) ア <u>未来をつなぐ次世代の LS 育成！</u> ・後進育成として、年に 5 回・5 人以上、LS 以外の教員が巡回や研修講師に同行する イ <u>学校を巡り、子どもたち・先生方を笑顔に！</u> ・担当市を中心に教育委員会と一緒に教員研修や施設見学などを実施する。年 4 回以上	(1) ア ・同行回数 年 5 回 5 人以上 イ ・研修及び施設見学 年 4 回以上	